

平成 29 年度 東筑紫短期大学 教員情報

【専攻科(介護福祉専攻)】

オクガワ ミツコ
 奥川 満子

OKUGAWA Mitsuko 教授 [専攻科長]

所 属	東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)
担 当 科 目	[専攻科(介護福祉専攻)] ・医療的ケア ・こころとからだのしくみⅠ、こころとからだのしくみⅡ ・認知症の理解 ・介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ ----- [保育学科] ・小児保健演習
専 門 分 野	■看護学 ■介護学に必要な医学一般
最 終 学 歴	九州産業大学大学院 経営学研究科 経営専攻 (修士課程)
学 位	修士 (経営学)
職 歴	東横病院 (昭和 48 年 4 月～昭和 51 年 12 月) 三菱重工大倉山病院 (昭和 52 年 2 月～昭和 55 年 3 月) 産業医科大学病院 (昭和 55 年 4 月～平成 21 年 3 月) 東筑紫短期大学 専攻科 准教授 (平成 21 年 4 月～平成 29 年 3 月) 東筑紫短期大学 専攻科 専攻科長・教授 (平成 29 年 4 月～現在に至る)
そ の 他 職 歴	福岡県立大学人間形成学科 非常勤講師 「小児保健実習」担当 (平成 9 年～平成 10 年) 産業医科大学保健学部看護学科 非常勤講師 「看護管理」担当 (平成 18 年～平成 21 年) 和歌山県立医科大学保健看護学部 非常勤講師 「リハビリテーション看護」担当 (平成 22 年～平成 25 年・平成 28 年)
主な研究活動	【論文】 「保育器収容中の未熟児に対する保育器外沐浴の検討」(論文)(共著) (概要) 保育器収容中の未熟児に対して保育器外沐浴を行い、沐浴が児に及ぼす影響と保育器外沐浴開始時の時期の検討をおこない、観察事項を設定することにより可能であることを明らかにした。 (小児看護 8 巻 25 号 628～632 頁 昭和 60 年 [旧姓 新垣]) 「血友病患者および家族家庭輸注の一方法を援助して」(論文)(共著) (概要) 昭和 58 年 2 月に血友病患者の自己注射が健康保険で正式に認められたため、私たちは自己注射を普及させるために、血友病サマーキャンプの機会に知識および実技指導を実施し、かなりの成果をあげることができた。(小児看護 9 巻 2 号 248～252 頁 昭和 61 年 [旧姓 新垣]) 「未熟児における直接母乳保育法の検討」(論文)(共著) (概要) 健常新生児の吸綴運動の状態のレベルを知り、未熟児の直接母乳保育へ移行時期を明らかにするために、圧測定装置で吸綴力を測定した。健常新生児の哺乳曲線の吸綴リズムは規則的で、吸綴力の高さ、振幅も鮮明であった。未熟児の直接保育移行時期の指標として、経日的測定が有効と示唆された。 (第 16 回日本看護学会 (小児看護) 昭和 60 年 10 月 [旧姓 新垣])

**「面会日記を作成して」(論文)(共著)**

(概要)

未熟児はNICU 収容により母子分離が余儀なくされ、特に極小未熟児は長期間の入院を必要とする。この長期入院によって母子関係に及ぼす弊害も決して少なくない。そこで、母子関係を促す一手段として、面会日記を取り入れ、効果を確かめるためにアンケート調査を実施し、その結果を報告した。

(小児看護9巻8号 1047~1051頁 昭和61年 [旧姓 新垣])

「看護業務の体力的検討**ーリハビリテーション科と泌尿器科との比較」(原著論文)(共著)**

(概要)

看護業務は、業務の異なる混合病棟において担当する診療科、患者により看護婦の負担度に相違が生じる可能性があると考え、身体的労働負担の相違を就労中の心拍数変化により調査した。勤務中の平均心拍数から平均酸素摂取量を推定したところ、泌尿器科担当看護婦に比べリハ科担当看護婦は、平均摂取量有意に高い値を示した。

(第23回日本看護学会(集録看護管理 178~181頁)平成4年9月)

「血友病患者の包括医療をめざして」(論文)(共著)

(概要)

産業医科大学病院福岡県および近隣地域の血友病患者に包括医療を行う目的で北九州血友病センターを開設した。そのセンターの役割とその活動内容を紹介した。

(看護技術31巻10号 72~77頁 平成5年 [旧姓 新垣])

「3 交替制勤務における看護婦の労働負担量および疲労に関する研究」(原著論文)(共著)

(概要)

看護婦11名の3交替勤務による看護婦の労働負担量と疲労の関係を調べた。心拍数と酸素摂取量の関係を求め、次に各勤務替の心拍数の変化を測定、合わせて業務内容を時間ごとに記録し、勤務終了後に疲労の自覚的症狀調査を行った。平均酸素摂取量では準夜勤>日勤>深夜勤であり、自覚疲労の訴え率は日勤・準夜勤より深夜勤が多く、深夜勤の疲労度が強い傾向が示唆された。

(第24回日本看護学会(集録看護管理 102~104頁)平成5年9月)

「機能的自立度評価法(FIM)によるADL評価—Barthel Indexとの比較—」**(原著論文)(共著)**

(概要)

ADL評価法としてBarthel Index(以下BI)を活用してきたが細かなADLの評価が困難であった。近年国際的に利用されつつあるADL評価法として、機能的自立法(FIM)があり、当科でも平成5年より試用を開始した。BIと比較してFIMの妥当性を検証した。FIMは妥当な評価表である可能性が示唆された。

(第25回日本看護学会(集録成人看護II 111~113頁)平成6年9月)

「看護アセスメントの実際 悪性腫瘍患者のフィジカルアセスメント」(解説/特集)(共著)

(概要)

癌患者の主要症状である全身倦怠感、疼痛、悪心・嘔吐の3つにポイントをおき、身体苦痛を軽減するために必要なフィジカルアセスメント看護ケアを紹介した。

(臨床看護23巻7号 1092~1097頁 平成9年)

「前立腺肥大症の手術療法を受ける患者と看護の役割」(解説)(共著)

(概要)

高齢者で前立腺肥大症の手術を受ける患者の術前・術後のアセスメントと患者ケアのポイントを紹介した。

(月刊ナーシング16巻8号 32~36頁 平成8年)

「看護職の自己表現トレーニングと自尊感情、首尾一貫感覚」(論文)(共著)

(概要)

病院で働く医療従事者、特に、看護師のストレスは産業保健上重要な問題と言われている。その改善策を見出すために、自尊感情に焦点を当て、首尾一貫感覚の関係について調査をした。その結果、自己表現トレーニングが自尊感情や首尾一貫感覚に好ましい影響を与え、看護師のストレス対策を考える際に参考になることが示唆された。

(第7回日本看護研究学会九州地方会 平成15年3月)



	<p>「介護と看護の相違点を模索するー介護福祉士の展望ー」(総説)</p> <p>(概要)</p> <p>介護と看護の歴史的な背景から察しても、「介護と看護はどう違うの」一言で論じると原点は同義語であり、広義に解釈しても共通の理念や行為が多いため、両者を議論することは難しい。そこで、両者の役割の違いを明らかにし、今後の課題について論じた。</p> <p>(東筑紫短期大学 研究紀要 第42号 平成23年12月)</p>
	<p>「小児保健演習の授業改善のための取り組み」</p> <p>ー保育実習Ⅰ(保育所)終了後のアンケートを実施してー」(論文)(共著)</p> <p>(概要)</p> <p>2011(平成23)年より保育士養成課程のカリキュラム改正がおこなわれ、その時に講義時間数も変更となったので、授業を充実より充実させるためにアンケートを実施しながら講義内容の効果を検証してきた。そこで今回、そのアンケート結果を分析・検討し、今後の方向性を示唆することができたので報告をおこなった。</p> <p>(東筑紫短期大学 研究紀要 第47号 平成28年12月)</p>
主な社会活動	<p>・周望学舎シニアカレッジ 講師</p> <p>(概要)</p> <p>今、日本では85歳以上4人に1人が認知症と言われている。これからの高齢者は老いといかに向き合うかが課題ではなからうか。その老いと向き合っていくためには、多くの人が「認知症」という病気を理解することが大切なため、「認知症の基礎知識」について講義をした。(平成22年11月)</p> <p>・周望学舎シニアカレッジ 講師 (平成25年度)</p>
所属学会	<p>日本看護協会 (昭和48年4月～現在に至る)</p> <p>日本介護福祉教育学会 (平成22年7月～現在に至る)</p> <p>日本認知症ケア学会 (平成22年4月～現在に至る)</p> <p>福岡県介護福祉会 (平成23年4月～現在に至る)</p>



所属	東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)	
担当科目	〔専攻科(介護福祉専攻)〕 ・介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ ・障害の理解 ・家事の介護 ・生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ ・発達と老化の理解 ・介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ	
専門分野	■介護福祉	
最終学歴	箕面学園福祉保育専門学校	
称号	専門士	
職歴	田能老人福祉会 介護職員 (平成3年4月～平成5年3月) 吹田市役所 高齢福祉課 在宅介護職 (平成5年4月～平成11年7月) 箕面学園福祉保育専門学校 専任教員 (平成15年4月～平成17年3月) 神戸介護福祉専門学校 専任教員 (平成17年4月～平成22年3月) 大阪保健福祉専門学校 専任教員 (平成22年4月～平成22年7月) 京都聖母女学院短期大学 嘱託専任教員 (平成23年4月～平成28年3月) 神戸女子大学 非常勤講師 (平成23年4月～平成24年3月) 東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻) 講師 (平成28年4月～現在に至る)	
教育上の業績	○介護総合演習 「介護福祉実習におけるてびき」作成 介護福祉実習で必要な実習の概要を記載 (平成20年4月) 介護福祉実習で必要な実習の概要を記載 (平成29年4月)	
主な研究活動	【著書】 「臨床に必要な介護概論」弘文堂 (共著) (平成19年3月) 第2章 p42～p52 介護の成立と史的展開 1) 介護の史的展開と施策の流れ 2) 社会の動向と介護	
主な社会活動	・介護福祉士国家試験実地試験委員 (平成17年～平成28年) ・YMCA ヘルパー2級講座・シルバー人材センターヘルパー講座 (平成17年～平成19年) ・吹田市役所 介護技術研修会 講師 (平成17年) ・神戸介護福祉専門学校 介護技術講習会 (主任指導者講習会 講師) (平成19年) ・神戸介護福祉専門学校 介護技術講習会 (指導者講習会 講師) (平成19年) ・神戸介護福祉専門学校 介護技術講習会 (平成19年～平成21年) ・介護福祉士国家試験直前対策講座 (介護技術・介護概論) (平成19年～平成21年) ・介護福祉士実習指導者講習会 講師 (スーパービジョンの意義と活用及び学生理解) (実習指導者における課題の対応・実習指導の方法と展開) (平成21年～平成22年) ・京都国際交流会館 地域講習 講師 (平成27年) ・日本介護福祉士養成施設協会 近畿ブロック会教員研修会委員 (平成28年)	
所属学会	日本介護福祉教育学会 (平成26年～現在に至る)	

タナカ フミカ
田中 文佳

TANAKA Fumika 講師

所属	東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)
担当科目	<p>[専攻科(介護福祉専攻)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の基本 I、介護の基本 II ・生活支援技術 I ・認知症の理解 ・介護総合演習 I、介護総合演習 II ・介護実習 I、介護実習 II
専門分野	<p>■社会福祉</p> <p>■地域福祉</p>
最終学歴	福岡県立大学大学院 人間社会学研究科 福祉社会専攻 (制度政策分野)
学位	修士 (社会福祉)
職歴	<p>学校法人沖学園 沖学園高等学校介護福祉コース 非常勤講師 「社会福祉概論」担当 (平成 11 年 4 月～平成 13 年 3 月)</p> <p>福智町 (当時:方城町) 役場 臨時職員のうち嘱託職員 (社会福祉士)</p> <p>「方城町総合福祉計画」及び福祉のまちづくり担当 (平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月)</p> <p>学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 専任教員</p> <p>介護福祉科及び介護福祉専攻科にて授業担当 (平成 14 年 4 月～平成 23 年 3 月)</p> <p>学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 非常勤講師 (平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月)</p> <p>西日本工業大学 非常勤講師 「総合人間科学」担当 (平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻) 講師 (平成 29 年 4 月～現在に至る)</p>
主な研究活動	<p>【論文】</p> <p>「住民参加における情報提供と情報共有の重要性について」</p> <p>日本社会福祉学会九州部会大会発表 (平成 11 年度)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苅田町社会福祉協議会評議員 (平成 21 年度) ・ 第 4 次苅田町総合計画審議会委員 (社会福祉分野) (平成 22 年度)
所属学会	<p>日本地域福祉学会 (平成 10 年～平成 21 年)</p> <p>日本社会福祉学会 (平成 10 年～現在に至る)</p>